



四幅中の第二幅



第四幅

## 有形文化財（絵画）

### 4. 絹本着色大谷本願寺親鸞聖人絵伝 ぶく 4幅

■指定年月日 昭和37年2月13日(1962)

■寸法 縦137.9cm 横74.8cm

■所在地 正院町正院22-41

■所有者 さいこうじ 西光寺

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人しゅつけの出家から本廟創立までを4幅の絵にまとめたもの。親鸞の孫である本願寺3世覚如かくによが、康永2年(1343)に、上巻8段、下巻7段にまとめた絵巻物を、「本願寺親鸞聖人伝ね絵」といった。絵巻物形式では多くの人が拝観できないため、後、詞書と絵が分けられ、詞を「御伝鈔」、掛軸4幅にした絵を「御絵伝ごえでん」と呼ぶようになる。真宗寺院の報恩講では、本堂余間に康永本を原型とする御絵伝を掛け、御伝鈔を拝読する。全15段20図29場面が、第1幅4段5図6場面、第2幅4段4図7場面、第3幅3段6図8場面、第4幅4段5図8場面に分けて描かれている。

この絵伝は、裏書によると、加賀を布教していた

本願寺8世蓮如れんによが、文明3年(1471)6月25日河北郡倉月莊木越光徳寺に下付したもので、寛永3年(1626)閏4月28日、本願寺13世宣如せんによが改めて西光寺蔵であることを加筆・証判している。

光徳寺は石川平野の要所にあつて、一向一揆の一大拠点であつたが、天正8年(1580)、佐久間盛政もりまさに攻められて寺基を移した。当寺への来歴を含め、初期北陸真宗教団史を知る上で極めて貴重な資料である。